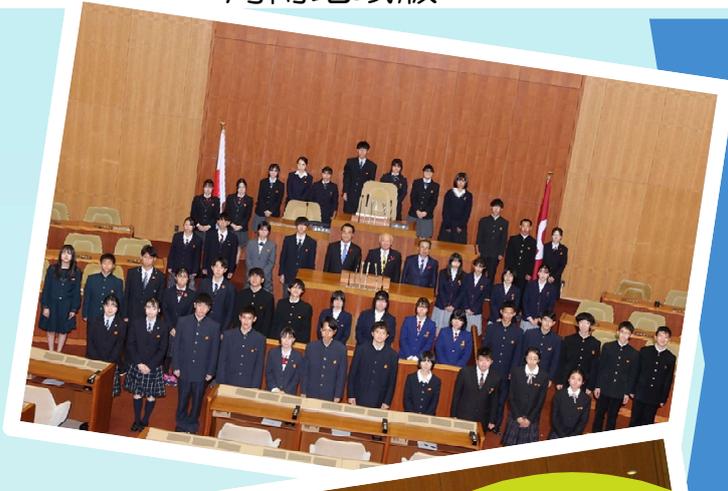




第8回やまぐち高校生県議会 に参加してきました！！

周南地域版

R4.11.1 開催



本会議場で挨拶をしました。

高校生県議会って？

次代を担う県内高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心と高めてもらうため、平成27年度から実施されている模擬議会

高校生県議会 次第

- 議長開会宣言
- 知事あいさつ
- 高校生議員の自己紹介
- 高校生議員からの質問及び執行部答弁
- 高校生県議会からの意見書の提出・採決
- 高校生議員代表まとめあいさつ
- 議長閉会あいさつ

【周南地域の高校生議員の皆さん】

(下松高等学校)秋本結衣・丸山恭禾、(華陵高等学校)河村笑莉・小林佳穂、(徳山高等学校)志熊龍之介・柴崎湧人・清水一希、(南陽工業高等学校)藤下新史・山本弥輝 ※敬称略

【問】校則の運用や改定を全県に広げていくためにどのような手立て、対策をされるか伺う。

【答】昨年6月に改めて、校則の見直しや運用についての考え方を示し、全国の取組事例を紹介しながら、見直しに取り組むよう依頼するとともに、校長や教頭、担当教員を対象とした研修等において、絶えず校則の見直しを行う機会を持つこと等について助言している。

県教委としては、今後も継続的に各高校に働きかけ、校則の適切な運用や改定の取組を全県に広げてまいります。



質問に立つ丸山議員

丸山議員（下松高）と小林議員（華陵高）が、周南地域を代表して質問をしました！

【問】公共の自習スペースはもちろん、高校生の勉強の意欲を向上させるような施設づくりについて、県としてどのように考えているか。

【答】各学校の自習スペースの充実に努めるとともに、公立図書館や公民館等の活用についても市町等に働きかけてまいりますので、こうした施設も活用しながら、自分の興味や関心に基づいて、主体的に学んでほしい。

県教委としては、高校生が情報を活用する力、課題を解決する力等のこれからの社会に求められる資質・能力を身に付けられるよう、意欲を高めて勉学に取り組んでいくことを期待する。



質問に立つ小林議員

質問と答弁 (全文)

<質問：丸山議員（下松高）>

私からは、山口県における校則運用や改定への動きについて2点質問させていただきます。

近年、SNSを中心に教育目的を達成するために必要かつ社会通念上、合理的と認められる範囲を外れている校則であるブラック校則が話題になっています。朝日新聞の県内の記事の中に、県教委学校安全・体育課によると、県内でも一部の県立高校で、旅行や外泊をする際に学校へ届け出る、校外団体への加入や集会参加に学校の許可を義務づける、下着の色は白、ツーブロックは奇異な髪型として禁止などの校則がある。もともと髪の色が明るいなどの特徴がある生徒には、入学時に地毛証明書の届出を提出させる学校もあると記載されており、県内でもブラック校則と思われるものが確認されています。

この状況に対して、完全にプライバシーの侵害、けど法律では訴えられないのが本当に悔しい、進学や就職のためだと言われますが、前髪が眉毛にかかっているだけで就職や進学ができないと思いませんといった意見もあります。確かに、学生であるという自覚を持ち、年齢に相当した服装を心がけることもマナーの視点で大切だと思います。

しかし、さきに挙げたとおり、中には社会的に理解の得にくい校則や時代にそぐわない校則があるのが現状です。また、県教育委員会は昨年7月に校則見直しに関して、見直しは各校の実情に応じ、保護者、生徒、地域と十分に話し合った上で判断されるべきだと述べています。

そこで質問です。校則について、県内の学校で見直されている一方、まだブラック校則が残っている現状もあります。校則の運用や改定を全県に広めていくためにどのような手だて、対策をされますか、お伺いします。

また、校則運用や改定には、さきに述べた県教育委員会のお考えのように、保護者、生徒、地域と十分に話し合って改定されることが大切だと考えます。そのため、校則の運用や改定にもっと保護者、生徒、地域が関われるように整備することが必要です。例えば、学校単位での校則の公開や、保護者、生徒、地域、教員で構成される委員会の設立などです。校則の運用や改定には少なからず先生方の考えが入っています。その中で、私たち生徒にも発言する機会があれば、より健全な学校運営に近づくと考えます。また、校則の公開で保護者や地域の方の参画も可能になるのではないのでしょうか。こうした動きの促進には県の方の協力が不可欠です。

そこで質問です。今私が提案した案の実現についてどのようにお考えでしょうか。また、提案の改善策などがあればお聞かせください。

<答弁：教育長>

下松高等学校、丸山議員の校則運用や改定への動きについての2点の御質問にお答えします。

まず、校則の運用や改定を全県に広げていくための手だて、対策についてのお尋ねです。

校則は、生徒の皆さんが健全な学校生活を営み、よりよく成長していくための行動の目安として、各学校において定められており、皆さんが学校生活を送る上で重要な役割を果たしています。

また、その内容については、学校・地域の状況や時代の進展等を踏まえ、絶えず積極的に見直すとともに、その運用においては、生徒の皆さんが校則を自分のこととして捉え、自主的に守っていくようにすることが大切です。

このため、県教育委員会では、昨年6月、各高校に対して改めて校則の見直しや運用についての考え方を示し、全国の教育委員会や学校における取組事例を紹介しながら見直しに取り組むよう依頼をしたところです。

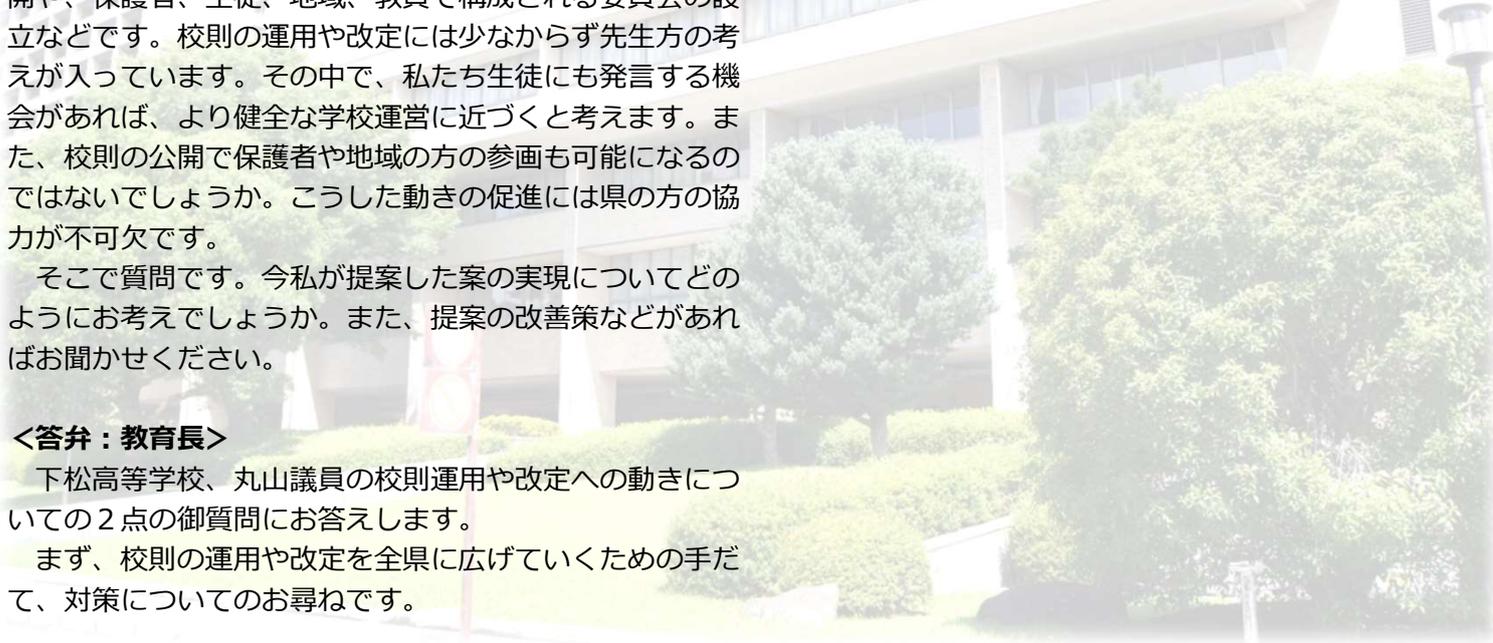
また、校長や教頭、生徒指導の担当教員を対象とした研修会等において、絶えず校則の見直しを行う機会を持つことや生徒が自主的に校則を守ろうとする意識を養うことなどについて助言をしているところです。

県教委としましては、今後も継続的に各高校に働きかけ、校則の適切な運用や改定の取組を全県に広げてまいります。

次に、丸山議員が提案された校則の運用や改定に関する案の実現についてのお尋ねです。

校則の運用や改定は、丸山議員が言われるように、各学校の実情に応じ、生徒・保護者・地域等で十分に話し合った上で行うことが大切であると考えています。現在、県内の多くの高校においては、校則について生徒総会で生徒同士が議論したり、学校運営協議会で保護者や地域の方々協議していますが、県教委では、生徒の皆さんの思いをより一層反映させるため、学校運営協議会に生徒が参加し、保護者・地域の方々と一緒に話しかける機会をつくるよう、各学校に働きかけているところです。また、学校関係者に校則を広く知っていただくことは大切なことであり、その方法については、国の考え方や他県の取組等も参考にしながら、今後、各高校に助言をしていきます。

県教委としましては、今後も県内の高校において、校則が適切に運用されるよう取り組んでいきますので、丸山議員をはじめ、高校生の皆さんも、校則を自分のこととして捉え、校則に関する協議等に主体的に参加をしていただき、豊かな学校生活を送られることを期待をしています。



質問と答弁（全文）

<質問：小林議員（華陵高）>

私からは、山口県独自の地方創生施設の取組について、2点質問をさせていただきます。

県独自の地方創生施設といえば、県庁に設置された地方創生テレワークのモデルオフィス「YY！SQUARE」が挙げられます。この施設は、県外からのテレワーク移住者の方を対象とした地方創生を目的とするもので、なかなか県内在住の高校生になじみ深いものではありません。

私たちは、地方創生かつ県内の若者のための施設も必要なのではないかと考えました。高校生ならではの視点と「YY！SQUARE」からのインスピレーションを受け、考えた一つの案は、学生が利用する公共の自習スペース、「学生版YY！SQUARE」をつくるということです。学生のために自習スペースを確保すること、また県内の高校生の学力向上を視野に入れた取組をすることは、地方創生を目指すために必要な魅力的な地域社会づくりにつながると考えます。

現役高校生は、県内の自習スペースに関してどのような思いを抱いているのか知るべく、周南・下松・光市在住の華陵高校の1から3年生、102人にアンケートを取りました。驚いたことに、公共の自習スペースを使いたいと思うと答えた人は70.6%もいるにもかかわらず、実際に自習スペースを、よく使う、時々使うと答えた人は38.2%しかいませんでした。また、どこで自習をしているのかという質問で3番目に多かったのは、カフェや公民館等のスペースを抑えて、家がランクインしています。

このギャップの背景には、自習スペースを利用したいと思えない理由で挙げられた、自習できる施設が家や学校から遠いため、無料で自習できるスペースは騒がしくする利用者がいて集中できないから等の高校生の悩みがあることが明らかになりました。

高校生が利用したいと思える自習スペースの条件をまとめると、駅の近くなど通いやすい立地でWi-Fiやコロナ対策が徹底されており、高校生が払いやすい月額設定で、夜遅い部活帰りでも利用できる自習スペースが理想的であるとの意見が多く寄せられました。特に、県の政策として生徒一人一人にタブレット端末を支給しているため、学習の際、Wi-Fiを必要だと感じる高校生は多いようです。

このような条件を満たした学生のための自習スペースを確保している自治体は、全国的に珍しいと思います。アンケート結果からも分かる通り、「学生版YY！SQUARE」を待ち望んでいる高校生は多くいます。この提案は、全国に先駆けるアイデアとして「YY！SQUARE」に並ぶ名高い金字塔になると確信しています。

そこで、1つ目の質問です。「YY！SQUARE」をはじめとする地方創生施設の増設についての現段階での方針、またPR方法はどのようなものを考えていますか。

そして、2つ目の質問です。公共の自習スペースはもちろん、高校生の勉学の意欲を向上させるような施設づくりについて、県としてどのようにお考えでしょうか。

以上、2点を質問させていただきます。

<答弁>

○知事

華陵高等学校、小林議員の御質問のうち、私からは、地方創生施設の増設やPRについてのお尋ねにお答えします。

本県の最重要課題である人口減少に歯止めをかけ、地域を活性化していくためには、県内に人をとどめるとともに、県外からの新たな人の流れを創出・拡大していくことが重要で

す。

このため、県では、コロナ禍を契機に普及が進むテレワークを活用して、都会での仕事を続けながら本県に移住するテレワーク移住や休暇・バケーションを楽しみながらテレワークを行うワーケーションを推進しています。

小林議員がお示しの「YY！SQUARE」は、昨年、全国で初めて県庁内に設置をした、テレワーク移住を推進する施設であります。ほかにも、本県の空の玄関口である山口宇部空港内に、ワーケーションの総合案内施設「YY！GATEWAY」というものを設置しています。

お尋ねの地方創生施設の増設については、まずはこの2つの拠点施設を核に、市町や民間事業者が設置した70を超える関連施設の数増加をさせていくことにより、都市部テレワーカーの受入れを積極的に進めてまいります。

次に、PRの方法については、様々な機会を捉えて、効果的な手法により設置施設の活用を積極的に促すことが重要です。

このため、施設の開設に合わせて、山口県テレワーク・ワーケーション総合案内サイトを開設し、県内でテレワーク等が可能な施設の情報をはじめ、テレワーク移住者の体験談やプロモーション動画などを紹介しています。

また、首都圏等の都市部に向けたPRとしては、県内にテレワーク移住をされ、山口ならではの暮らしを満喫されている方を紹介するオンラインセミナーなどを開催し、認知度の向上を図っているところです。

こうした取組により、「YY！SQUARE」は、一日平均で25名以上の方が利用されていますが、その約3割が県外の企業等に勤務されている方となっています。

これからは、テレワークの活用により、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方ができる時代となりますので、高校生の皆さんには、山口県との関わりを大切にしながら、自分の将来の就職や働き方について検討していただきたいと思います。

○教育長

高校生の勉学の意欲の向上に向けた施設づくりについてのお尋ねにお答えします。

このたび小林議員が自らアンケート調査を実施し、その内容を分析してまとめ、調査結果を踏まえた見解を述べられたように、これからの社会に求められる資質能力を身につけていくためには、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に学んでいくことが大変重要であると考えています。このため県教育委員会では、全ての県立学校に1人1台タブレット端末を整備して自主的な学びを促したり、コミュニティ・スクールを導入して体験的・探究的な学びを進めたりすることで、高校生が自ら学びに向かうことができる環境を整え、学習意欲の向上に努めているところです。

お尋ねの高校生の勉学の意欲を向上させるような施設づくりについては、各学校の自習スペースの充実にも努めるとともに、公立図書館や公民館等の活用についても、市町等に働きかけてまいりますので、こうした施設も上手に活用しながら、自分の興味や関心に基づいて主体的に学んでほしいと考えています。

県教委としましては、高校生の皆さんが情報を活用する力や課題を解決する力など、これからの社会に求められる資質能力を身につけられるよう、意欲を高めて勉学に取り組んでいくことを期待しています。

第8回やまぐち高校生県議会で採択された意見書

交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書

私たち高校生が頻りに利用する移動手段として自転車がありますが、自転車と車両、歩行者の接触事故が県内でも多数発生しています。県内の車道を通行する際、自転車と車両の距離が近く、危険な場所は少なくありません。また、歩行者と自転車が同じ一つの歩道を利用していることが原因での接触事故が多いことが挙げられます。特に、学校周辺の道路が狭い道が多いことや、交通量の多い道路に面している学校が多く通学時には危険な場面が度々見られます。

そこで、これらの問題を解決するために私たちは、「自転車道の整備」を提案いたします。自転車が安全に通行できる道路整備を進めることで、歩行者や自動車の安全確保にもつながります。特に、学校周辺や交通量の多い道路において、歩行者、自転車、自動車それぞれが安全に通行できる道路の整備を行うことで、老若男女問わず安心安全に住みやすく、生活しやすい街になると考えられます。

また、近年、地球温暖化の進行する中で、二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として自転車の注目度は高まっています。自転車の利用を促進していくためにも、歩行者と自転車が分離された通行空間の整備に取り組む必要があります。

そのほかにも、公共交通機関が充実していない地域を多く抱える本県では、自転車を移動手段として選択する方は多くなっています。さらに、高齢化が進む我が県で、

路線バスの廃止等、地域公共交通サービスをめぐる環境が厳しさを増す一方、高齢者の運転免許証返納者数が年々増加し、高齢者で自転車を移動手段として利用する方は増加傾向になると私たちは考えます。県内の交通事故による死亡者、負傷者共に高齢者が多く、一層の注意が必要なものとなります。

これから自転車を利用する人が、安全にルールを守って利用できるように、そして、普段から通勤・通学や移動の手段として自転車を使用する方が、より安全で便利な二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として利用できるよう、自転車道の整備を求めます。

令和4年11月1日

第8回やまぐち高校生県議会 議員一同

(代表提案者：野田学園高等学校 村岡 将多君)



提案理由を説明する村岡議員

高校議員代表まとめあいさつ

本日は、第8回やまぐち高校生県議会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

事前学習会や本日の議場での質問など、普段の学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。

8月に開催された事前学習会の中で、山口県の最重要課題は人口減少と少子高齢化であるというお話を伺いました。山口県の人口は昭和61年以降減少が続いています。

国においても、平成20年をピークに人口は減少しており、令和35年には、人口が1億人を割り込むと推計されています。こうした中、山口県では、やまぐち維新プランで、妊娠・出産、子育てと続く切れ目のない支援を行っておられます。それもあってか、令和3年の山口県の合計特殊出生率は1.49で、全国平均の1.30を上回っています。一方、YY!ターン支援など、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた山口県への移住促進に取り組んだり、やまぐち維新プランにより働きやすい環境を整えているにも関わらず、国立社会保障・人口問題研究所による第8回人口移動調査では、山口県のUターン率は全国平均の43.7%を下回る40.0%でした。

山口県が住みやすく働きやすい、そして、子育てしやすい地域であるという認識が県内外に浸透していないのか、現状は転出超過が続いています。

私たちは情報発信にたけた世代です。私たち高校生が山口県の魅力をしっかり学び、体験し、実感することで、卒業後にそれぞれの場所で山口県の持つ多彩な魅力を広く伝えられればと思います。

今年4月に民法が改正され、成年年齢が18歳に引き下げられました。私たちは在学中に成年を迎え、大人として社会に出ていくこととなります。

昨年の衆議院議員選挙では、山口県の投票率が最下位であったとのニュースを見ました。中でも20歳以下の投票率は著しく低く、私たち若者が政治を自分ごととして捉え、選挙に積極的に参加する必要があると感じました。私も一人の社会人として、必ず選挙に参加します。

結びに、山口県民の一員として持続可能な未来社会の創出に貢献し、「活みなぎる山口県」の実現のため、積極的に尽力し続けることを宣言し、決意表明とさせていただきます。

高校生議員代表 大津緑洋高等学校日置校舎

鴨川依乃梨さん



決意表明する鴨川議員